



プライベートIP端末を含めたセキュアなP2P型通信の研究

2002年度未踏ユース採択

開発者:

山田育矢 (株式会社ニューロン代表取締役)

佐藤大介 (株式会社ニューロン取締役研究開発担当)

渡邊翔太 (株式会社ニューロン)

- 従来のP2P型通信の制約からの解放の必要性
 - 現在多くのルータで利用されているNAT技術によりP2P型通信が制約されている
 - 高音質なインターネット電話が利用できない端末が存在
 - 高画質なビデオ会議が利用できない端末が存在

⇒NAT問題により直接通信が不能なため



- 従来の制約解決法であった中継通信ではブロードバンドコンテンツの普及により対応不能
 - NAT利用者が多く質の高い中継サービスが提供できない
 - 提供するには多くのコストを中継システムに投資しなければならない
- 本開発により100%のP2P型通信のNAT越えを実現
 - 独自技術による殆どのネットワーク環境での直接通信の実現
 - 独自中継技術の開発によって中継利用時のユーザー増大にも対応
- 応用事例
 - マルチメディアデータの転送負荷軽減
 - ユビキタスデバイスへのSDK提供
 - インターネットビデオ会議・インターネット電話の実現
 - グループウェア・ファイル共有等のコラボレーションソフトウェアへの応用